

事業所名		エファタ会館ことばの教室		公表日 2025年5月27日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	2つの指導室と大ホールを活用し、同時に複数名の個別指導ができる体制を整えています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	常勤3名の言語聴覚士に加え、非常勤スタッフを増員し、特に利用の多い曜日には職員配置を手厚くしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	お子さんの特性に応じて使用する部屋を選び、不要な物が目に入らないよう環境を整えています。安全で集中しやすい環境づくりを意識しています。	洗面所の蛇口に手が届かないお子さまのために踏み台を常置するなど、環境面での配慮を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1		トイレで下水臭が発生することがあり、こどもが気になる場面も見られるため、改善に向けた対策が必要であると認識しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1		こどもが気持ちを落ち着けられるクールダウンスペースを十分に確保できていない場面があり、環境整備が課題となっています。また、混雑時には個室が満室となり、家族の相談支援を行う際にこどもの待機場所が不足することがあるため、今後の改善が必要と認識しています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2		職員が広くPDCAサイクルに参画しているという認識を高める必要があり、情報共有の不足感を解消することが今後の課題となっています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎回の支援で保護者とお子さんの状況や課題を共有し、ご意見を伺う機会を大切にしています。必要に応じて相談支援事業所等とも連携しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	職員が意見を出しやすいよう、定期的に会議の場を設け、意見交換の機会を確保しています。	会議で出された意見が必ずしも業務改善に反映されていると感じられないという声があり、意見の扱いや共有方法について改善の余地があると認識しています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		第三者による外部評価については、今後の導入を検討しており、業務改善に活かせるよう体制整備が課題となっています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	当事業所では、個別に支援プログラムを作成していますが、どのお子さんにも共通な、当事業所が大切にしている支援の方針について、職員間で話し合い、「支援プログラム」としてまとめて、ホームページに公表しました。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	標準化された検査を用いたアセスメントを定期的に実施し、その結果に基づいて個別支援計画を作成しています。半年ごとにモニタリングを行い、保護者の意向を踏まえて見直しを行っています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2		個別指導が中心であるため、全職員が全てのこどもの支援計画を共有する必要性は薄いという意見がありました。

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		個別指導が中心であるため、全職員が全てのこどもの支援計画を共有する必要性は薄いという意見がありました。 ただし、もちろん計画に沿った支援は実施しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	構音検査や発達検査など、必要に応じて標準化された各種アセスメントを実施し、その結果を支援に反映しています。今後も継続的に検査を行い、専門性向上のための研鑽にも努めています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2		当事業所は個別指導が中心であるため、こどもの活動プログラムは担当職員が個別に立案しており、チーム全体での立案は必ずしも必要性が高くありません。そのため「チームで行っていない」との意見がありました。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・各種アセスメントの結果とお子さまの発達状況に応じて支援内容を柔軟に調整しており、支援が固定化することはありません。毎月ケースカンファレンスを行い、職員同士が助言し合いながら支援の質を高めています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	0	6		個別の言語発達指導が中心であり、保護者からも個別支援が期待されているため、集団活動を組み合わせた支援は基本的に行っていません。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	必要な情報は、必要な時に職員間で即時共有できる体制を整えています。	「毎日・開始前に・必ず」という体制ではないため「いいえ」と回答した職員がいました。情報共有の在り方は改善してまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	必要な情報は、必要な時に職員間で即時共有できる体制を整えています。	「毎日・終了後に・必ず」という体制ではないため「いいえ」と回答した職員がいました。情報共有の在り方は改善してまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	毎回の支援後に指導内容・結果・次回の課題を記録し、支援の検証や改善に活かしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	半年に1回モニタリングを行い、保護者や本人の意向を伺いながら、個々のお子さまのサービス計画の見直しを判断しています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	地域の関係機関との連携は、保護者の意向を尊重し、希望がある場合に適宜行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	4		送迎を行っていないため、併行利用先との直接的な情報共有の機会が少なく、連携の在り方に課題があります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	就学後の指導内容などについて、問い合わせがあれば、情報共有しています。	
		(28～30は、センターのみ回答)				

関係機関や保護者との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	研修の案内をいただいた際には従業員や保護者に共有し、実際に参加して多くの学びを得ました。	専門職である言語聴覚士が個別支援を行っているため、外部スーパーバイズの必要性は必ずしも高くありません。そのため「機会を設けていない」という意見があり、外部連携の方法については今後の検討課題と考えています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6		個別指導と個人情報保護の観点から、地域交流活動は実施しておらず、保護者からのニーズも現状ではありません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	毎回の支援時に保護者とお子さまの状況や課題を伝え合い、発達状況について共通理解を持てるようにしています。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	今年度は、就学・就労に関する講演会と座談会を実施し、保護者が学び合える機会を設けました。また、研修形式ではありませんが、毎回の支援時に家庭での関わり方について助言を行い、家族の対応力向上につなげています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	毎回の支援時に保護者からの子育ての悩みや相談に応じ、必要に応じて面談や家庭での関わり方について助言を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	講演会や座談会を実施し、保護者同士が交流できる機会を設けています。	きょうだい同士の交流の機会は今現状作っていませんが、「きょうだいケア」について保護者からのニーズがあれば検討したいと考えています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	「目安箱」を設置し、いただいたご意見は会議で共有し、改善につなげています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0		保護者アンケートより、情報発信は行っているが十分ではないとの意見があり、媒体や適時性を工夫していく必要があると考えています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		保護者アンケートより、行っているが十分ではないと読み取れるため、定期的な整理整頓の時間を設けることや、施錠できる環境整備を進めていく必要があります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	難聴のある保護者には文書化などの配慮を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6		個人情報への配慮や保護者の意向もあり、地域住民を招く行事は実施していません。講演会や研修については、他事業所の希望者にも参加していただけるよう検討していきたいと考えています。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		利用者への周知が不十分であるとのアンケート結果があり、張り紙やSNS等で伝達機会を増やしていく必要があります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	災害時の対応を想定した訓練を行い、職員が適切に行動できるよう備えています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	服薬やアレルギーの確認など、健康管理にも配慮しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	強化子として食物を用いる際は、アレルギーの有無を確認して、提供しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		安全管理の面で、ドアロックやマットのひっかかりなど、こどもの安全に関わる不安が一部に見られました。今後はこれらの点を改善し、安全性をさらに高めていくことが課題です。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		利用者への周知が不十分であるとのアンケート結果があり、張り紙やSNS等で伝達機会を増やしていく必要があります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットを記録し、会議で伝達しています。共有した内容をもとに再発防止策を検討しています。	再発防止策がどこまで実行できているかについて、振り返りが十分でないとの認識があり、今後の改善が課題となっています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	身体拘束が必要となる場合には、事前に保護者に説明し同意を得て対応しています。	